

Victory

NO.5

令和5年8月

宮崎県立宮崎西高等学校・附属中学校図書館

8月23日は処暑でした。まだしばらくは暑さと折り合いをつけながら過ごす日が続きそうですが、それでも朝は涼しさを感じるようになり、時折とどく虫の声を耳にすると、確かな季節の巡りを感じて心が和む気がします。

先日、地面に落ちているコナラのドングリを見つけ、ほんの少し秋を先取りしたような気分になりました。

2学期も始まり、今は学校中が朝陽祭準備一色です。日々変化する合唱練習でのハーモニーは、この時期ならではの素敵なBGMです。

みなさんの熱いパッションとパフォーマンスで、今年の朝陽祭がこれまで以上に素晴らしい作品となることを祈っています。



図書館リニューアル中

7月後半、図書委員をはじめたくさんの方に図書館の本の梱包作業・運び出しを協力してもらいました。1週間弱で、無事約35,000冊の本を箱詰めし、書庫に移動することができました。熱い中本当にありがとうございました。

現在は、改装工事まっただ中です。がらんとした廃墟のような空間に驚く声が聞こえてきます。ちなみに、職員はその一角におります。

改装完了は9月10日予定です。その後、本を棚に戻す作業に入ります。みなさんが実際に本を利用できるのは、9月19日(火)以降の予定です。

どうぞ、新たに生まれ変わる図書館をお楽しみに。



↑ 文庫・新書が入った段ボール



↑ 開架書架の梱包状況



運び出し完了



閲覧スペース



カウンター作業室



お願い!

まだまだ受付ています!

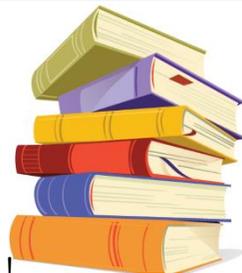
古本市用の本の提供をお願い
します。



*家で眠っている本があったら、1冊でもOK!

図書委員に渡してください。

あなたの本が新たな誰かとの出会いに一役かいます!



棚からひとつかみ “うたう”

“うたう”。「歌う」と「詠う」…合唱練習で聞こえてくるみなさんの歌声と、短歌甲子園で三十一文字を詠う姿から二種類の“うたう”をテーマにした本を紹介합니다。思いを込めてうたう姿は、いつ見てもいつ聞いても美しい。

『声が世界を抱きしめます』

谷川俊太郎 詩・音楽・合唱を語る』NDC767 ナ
中地雅之著（東京学芸大学出版会 2018）

谷川俊太郎さんの詩は、多くの合唱曲になっています。みなさんも一度は谷川さんの詩を歌ったことがあることでしょうか。なぜ、彼の詩は歌っていて心震えるのか？本書の中で「詩は散文よりはるかに音楽に近い」「詩というのは語と語の関係において、音符と音符の関係に近いような音楽性を持っているはずだと思っています」と語っています。このあたりに答えはありそうです。ことばと音楽の関係性を考えてみたくなる1冊です。

本書は、2017年に東京学芸大学での合唱講座の様子と2018年谷川さんの自宅でのインタビューをまとめたものです。



『うたうとは小さいのちひろいあげ』

村上しいこ著（講談社 2015）NDC913.6 △
同じ高校に入学したものの、中学時代の壮絶ないじめが原因で不登校になった親友・綾美に、彼女への負い目から高校では、友達を作らないと宣言した桃子。人数あわせのために入部したうた部で、短歌甲子園に出場することになり…。タイトルの下の句気になりませんか？



扉を開こう。新たな世界が君を待っている。

美術館はおもしろい！

この夏休み、映画「わたしたちの国立西洋美術館 奇跡のコレクションの舞台裏」（宮崎での上映は終了しました。）を観てきました。この映画は、東京上野にある国立西洋美術館が2020年10月～2022年4月の一年半かけて行った整備工事に密着し、完成までの様子を所蔵する豪華なコレクション群とともにそこで働くキュレーター（学芸員）や研究者、修復家たちの真摯な仕事を余すところなく描いたドキュメンタリー作品です。

普段は見ることの出来ない、舞台裏…美術・工芸品の収集、保存、補修（修理・修復）はもとより、今回の前庭の整備工事に伴うオブジェの移動、例えば誰もが知っているロダンの「考える人」が布でグルグル巻きにされ、クレーン車で宙づりされる様子は圧巻でした。リニューアル工事に伴う館内作品の引っ越し作業、完成後の配置計画、新たな作品の購入のための会議、エキスパートである彼らの源には西洋美術へのあふれる愛と情熱を感じました。

美術館や博物館が何のため存在するのか、その役割そして課題を改めて再認識させてくれる優れた作品でした。図書館が知の拠点といわれるように、美術館は古代から現代までの優れた芸術作品の数々を保存・展示し、未来へ継承することで、今を生きる私たちに多くの感動と新たな創造をもたらしてくれます。

芸術は人が生きていくために欠くことの出来ない表現手段です。

国立西洋美術館は、フランス政府から寄贈返還された「松方コレクション」を保存し公開するために作られました。建物は、建築界の巨匠ル・コルビュジエです。（興味のある人は下線を事典等でひくことをお勧めします。）

宮崎での上映は残念ながら終了しましたが、今後DVDになると思います。キュレーターとして美術に関わりたい人はもちろん、作品の作り手になりたい人、そして鑑賞するのが好きな人もぜひ、観ることをお勧めします。

いい季節になっていきます。芸術を様々な角度から楽しみたいものです。